

「つどい」「まなび」「つながる」場を提供します。

新潟市教育委員会 白根地区公民館

〒950-1477 新潟市南区田中383番地（白根学習館内）

☎025-372-5533

✉shirone.co@city.niigata.lg.jp

※不定期発行

白根高校生が地域課題に挑む！

しろみな塾（提案編）特集

白根地区公民館では、毎年地域活動の担い手の若返りを図るために、南区唯一の高校である県立白根高校の生徒を対象として、地域課題に向き合い、考え、行動を起こすことができる若者の育成を目的に、「しろみな塾(提案編)」を開催しています。今年度は、10月17日から1月23日まで、受講を希望した白根高校1年生6名、2年生8名の計14名が地域課題に挑みました。

「しろみな塾(提案編)」は、地域の課題について高校生自身が課題解決方法（アイデア）を考えることで、自己のスキルアップを図るとともに、未来の自分が地域にどのように関わり、何ができるかを考えるきっかけになることを目指しています。

あわせて、次年度高校生のアイデアを地域で実践することで、地域コミュニティの活性化とまちづくりに繋がることを期待しています。

今回の講座で受講生が挑んだ地域課題（臼井地区からの課題）
「臼井地区のまつりに、もっと若い人が行きたくなるようなりニューアル案を考えてほしい」

臼井地区では、創作民話をもとにした臼井地区まつり「狸の婿入り行列」が20年以上開催されていますが、これからもまつりを続けていくために、若い人にもっと来てもらいたいと考えています。

そこで今回、白高生14名が、この難題について、解決方法を考えることに挑んできました。



地域課題解決に向けたアイデア発表会を開催

1月23日、白根高校生による地域課題解決に向けたアイデア発表会を開催。しろみな塾(提案編)の中で考えたアイデアを、ご来場のみなさまの前で、提案しました。白高生はどんなアイデアを考えたのか？詳しくは裏面をご覧ください。



VOL. 14

令和7年
1月23日発行

リニューアル案その1 まつりを夜まで開催する

<このアイデアを考えた理由>

忙しい高校生は、昼間のまつりに行きづらい
⇒夜まで開催していれば、来やすくなるのでは。そのうえで、若者が楽しめるイベントを行えば、さらに集客UPが見込める！
「狸の婿入り行列」も、夜に提灯を持って行えばSNS映え間違いなし！



(イベントの例)

・「狸の婿入り行列」のために通行止めになっているエリアを使って、「逃走中」を開催。タヌキになった参加者が、謎解きなどのミッションをクリアしながら、制限時間内にハンターから逃げ切ることが出来れば勝利。ハンターに尻尾を取られてしまうと負けとなる。

リニューアル案その2 「狸の婿入り」にもっと光を！

ポン太とおるみの 出会い劇場



<このアイデアを考えた理由>

臼井地区の 創作民話「狸の婿入り」を、もっとまつりに活用してイベント自体のオリジナリティを高め、宣伝効果をUP！

(活用例)

「狸の婿入り行列」が会場に戻ってきた後で、ポン太とおるみにふんじた新郎新婦に関するO×クイズ大会を開催。最も会場に人が集まるタイミングで行うので、イベントとしても盛り上がる！

リニューアル案その3 臼井オリジナルの屋台

<このアイデアを考えた理由>

他にはない、臼井オリジナルの屋台を出すことで、新たな層の集客に繋げることができる。

(屋台の例)

ポップコーンの屋台。箱には臼井らしく「狸」のイラスト入りで、ぬり絵バージョンも作れば、その場で色をぬって楽しめる。

ポップコーンの味は珍しいものも含めて、たくさん用意。少しずつ買って友達や家族と分け合ったり、知らない人との会話のきっかけにしたりもできそう。

ポン太のお祝いポップコーン



提案したアイデアをベースに、 令和7年度臼井地区で実践します！

今回、白高生が提案したアイデアをベースに、関係者と協議をしながら、令和7年度に臼井地区で「しろみな塾(実践編)」の開催を予定しています。

臼井地区まつり実行委員会、臼井地区コミュニティ協議会や白根高校と連携し、準備を進めていきたいと考えています。また、今後の活動についても発信していく予定です。

これからも臼井地区、白根高校生に
応援をよろしくお願いします。



南区では白根高校生による まちづくりを目指しています！

南区と白根高校は令和4年3月に連携・協力に関する協定を締結しました。生徒の人材育成や、白高生によるまちづくりに、両者が協力し合っていきたいと考えています。

令和5年度の大鷲地区の地域課題に対する取り組みにて、白高生が提案したイベントアイデアを、令和6年度に同地区で実践しました(大鷲夜まつりもりあげ隊)。実際にイベントに参加された地域住民の皆様からも好評をいただき、今後もこのような活動を継続していきたいと考えています。